



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 唐木一平 幹事 唐木 章 会報委員長 大石ひとみ 第2891回例会 2019.12.19 No.1550



2019-20年度 RI テーマ

Rotary Connects The World

ソング 我等の生業**ビジター・ゲスト紹介** 信州大学農学部講師 浜野 充先生**会長談話** 唐木一平会長

令和元年の例会も残すところ今回を含めまして2回となりました。次回は年末家族会となりますので通常例会としましては本会が最終となります。



60期も既に半分を終えました。会員の皆様の日々の奉仕活動、会運営へのご協力改めて感謝申し上げます。

12月25日年末家族会は小林旬子委員長の下、親睦活動委員会の計画で約90名の参加者を予定しています。私達会員がロータリアンとしての務めを果たすためには家族の理解があつてこそです。このクリスマス例会を楽しい会にして感謝の意を伝えましょう。

年が明けますと沢山の企画・行事があります。

1月25日に親水凧揚げ大会、クラブ代表唐木章幹事、青少年奉仕委員会山崎秀亮委員長を中心に行っていただきます。本日皆様に手作り凧を配布いたしました。何分にも地区補助金を基とする初めての大会です。会員皆様とご家族の皆様にご協力を頂けますようお願い申し上げます。

1月30日に伊那弥生ヶ丘高校キャリア教育授業、昨年の企画が好評で本年も、竹腰職業・社会奉仕委員長が先生と打ち合わせを重ね計画中です。クラブ代表でパネラーになられる皆さん宜しくお願い致します。

2月24日は当クラブ創立60周年記念式典です。宮下金俊実行委員長を始めとして各部会での緻密なる計画で準備が進んでおります。平素よりお世話になっております来賓の皆様を始めとして地域の皆様へロータリー活動の周知とご理解また感謝の意を伝える会ではありますが、今回は特に会員皆様の日々の奉仕活動への感謝と慰労の目的で企画しております。楽しんでいただければと思っております。

インフルエンザが流行っております。多忙な日々になりますが、是非ともお体ご自愛いただきご活躍を祈

念いたします。

在籍表彰 20年在籍

山田 益会員

幹事報告

別紙をご覧ください。

委員会報告

○ ガバナーエレクト国際協議会壮行会出席報告

山田 益上伊那グループ次期ガバナー補佐

1月19日～26日まで米国サンディエゴで開催される国際協議会に出席予定の成田守夫ガバナーエレクトの壮行会が、関係者60名が出席して行われ、出席してきました。

○ 地区補助金管理セミナー報告

藤澤洋二会長エレクト

12月15日(日)松本大学で開催されました。席上2018-19年度100%ロータリー財団寄付クラブのバナーとポリオ1,500ドル寄付の感謝状を頂いてきました。

○ 創立60周年実行委員会よりお願い

宮下金俊実行委員長

式典当日6分程度のスライドショーを行う予定、ついでに古い懐かしい写真や品物があつたら事務局へ出してください。

出席報告 会員数56名 内出席免除16名 出席者31名 事前メーキャップ2名 出席率64.70%

ニコニコボックス

平出吉範 浜野先生本日は卓話宜しくお願い致します。塚越 寛 今月11日朝、弊社の事がNHKで全国放送されました。

原田和愛 今年も残り少なくなりました。お世話になりました。

第61期役員・理事就任 吉澤祥文・赤羽弘之・馬場智義・坂井清彦

卓話 信州大学農学部講師 浜野充先生

(紹介者 平出吉範情報・プログラム委員長)



【経歴】

1996年：近畿大学農学部国際資源学科卒業
1996年（3年）：JICA 青年海外協力隊ホンジュラス派遣
1999年（1年4ヶ月）：JICA 青年会議協力隊駒ヶ根訓練所（JOCA 所属）
2002年：英国イーストアングリア大学農村開発学修士課程修了
2002年（3年間）：JICA ジュニア専門員（カンボジア・農業プロジェクト）
2006年（2年間）：JICA 派遣専門家（カンボジア・ジェンダープロジェクト）
2010年（3年間）：JICA 草の根技術協力プロジェクト 現地マネージャー（カンボジア・農産物加工業振興プロジェクト）
2014年：名古屋大学大学院 博士後期課程修了
2015年4月～現職：信州大学農学部 国際農学教育研究センター副センター長／講師
2015年8月：宮田村へ移住

【卓話概要】

今の日本の18歳の人口は団塊世代の子供である私の頃の半分であり、大学の経営も苦しくなっており、留学生を取り込むとともに、日本の学生もグローバルに育てなければ立ちゆかなくなっている。



私の研究室では、海外と日本の農村で経験を積むことで、グローバルな視点を養いながら、ローカルに生きる人材を育てることを目標にしています。実際に、学生を見ていると、短い期間でとても成長すると感じています。生きるということの価値観が変わるような気がしています。具体的には農学を学ぶ学生として、農業と食、地産地消、地域のつながりの重要性を体感として認識しはじめます。

高校・大学が連携して取り組むネパールの農業教育強化プロジェクトは、非常に有効なフィールドになると考えています。高校の時から、そういう視点や素養を養えるはずで、特に、上農高校の実践的な農業教育に、グローバル教育を重ねる意義は非常に高いと考えています。大学としてはそういった学生がさらに入学してくれることを期待しています。また、こういった教育・研究の取組みは、海外と日本の人材循環を促すのではないかと考えています。

2016年より、信州大学農学部の根本・浜野が、ネパールの中等教育（日本の高校）の農業教育を強化・支援するために、上伊那農業高校と連

携して JICA 草の根プロジェクトを実施しました（2年間）。2019年4月に、その後継プロジェクトとして、長野県（上伊那地域振興局）や上伊那農業高校とともに申請した「ネパール中等教育における農業教育強化（長野県・高大連携グローバル教育促進）」が採択され、2020年3月から開始する予定です。

日本と同様に、ネパールでは農村地域の高齢化や若者の都市部への流出が起きており、持続的な農業や農村の暮らしそのものを続けていくためには、農業を基盤とした生活サイクルや資源利用の持続性を維持しつつ、収入向上につながるような農業の育成・観光や六次産業化の取込みなど、新たな展開が必要になると考えます。

ネパール政府は、全国の中等教育（日本の高校にあたります）に農業課程を含めた技術教育プログラムを2014年より導入し始めました。しかしながら、農業教育では、教員の人材育成体制が未整備でそれぞれの地域の農業を理解しないまま教育が進められており、このままでは地域の農業人材の育成に効果的につながらない可能性があります。

2016年からのプロジェクトでは、ムスタン郡のコバン VDC にある農業高校において、地域の農業に合わせた実践的な農業教育体制・指導方法の構築を目指して活動を行って来ました。来年から始まるプロジェクトでは、さらにチトワン、カトマンズ周辺地域の高校にその支援の枠を広げ、上伊那地域振興局、上伊那農業高校と連携して活動を行います。

そのなかで、できるだけ多くのネパール関係者を招へいし、研修を行うとともに、高校生・大学生をネパールに派遣し、交流を促進するとともに、ネパール・南信地域の農業や地域の課題について考えるグローバル教育を進めていきたいと考えております。「国際協力事業が若い世代の人材育成につながり、人が循環する社会のハブとして、ネパール・南信地域の活性化につながる」という未来を見据えながら、本事業を展開していきたいと考えております。

この卓話は2回に分けており、この続きは3月にさせていただきます。

